

# 第1学年算数科指導案

日 時 令和6年11月12日(火) 第5校時  
場 所  
授業者

## 1. 単元名 「たしざん」 (1/7)

## 2. 研究テーマと関わって

### (1) 研究主題

**見方・考え方を働かせ・数学的に考える児童を育てる指導の在り方**

### (2) 研究内容と関わって

**【重点1】数学的な見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化**

#### ① 数学的な見方・考え方の明確化

本時は、これまでの加法と違い、和が2位数になる加法を学習していく。このとき大事になるのは、「10とあといくつ」という数の見方である。図やブロック操作を通して、10のまとまりを作ること、 $10 + \bigcirc$ という既習の計算を用いることができる。既習の内容につなげるためにはどうすればよいか考えられるようにしたい。

#### ② 数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

$9 + 4$ の計算の仕方を考え、図やブロックを用いながら、自分の言葉で伝えることができるようにする。1つずつ数える方法でもよいので、ペアで伝え合う。練習問題では、本時学習した「10のまとまりをつくる」考え方で説明できるようにする。

**【重点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**

#### ① 「個別最適な学び」からの授業改善

本時は、自分の考えを仲間に伝えることを目標としている。そのために、具体物(ブロック)を操作しながらの説明、図を使った説明がある。図をかいたプリントを使って説明したり、具体物を使って説明したりと、自分のやりやすい方法を選び、説明できるようにする。

#### ② 「協働的な学び」からの授業改善

協働学習として、3つの活動を仕組む。1つ目は、個人追究場面でのミニ先生を行う。一人では進まない児童も多いので、そういった児童が仲間から教えてもらってできるようにする。また、教えることで自分の考えを確かなものにできるようにする。2つ目は、ペア交流を行う。一人一人が自分の考えを必ず話すことで、本時のねらいを達成できるようにする。聞く側にも視点を示し、じっくり話を聞くことができるようにする。3つ目は、終末場面で本時の学びについての交流を行う。本時の授業でできたこと、分かったことを話すことで、できた実感をもたせられるようにする。本時のねらいに迫った振り返りができるよう、振り返る視点を与え、話せるようにしたい。

### 3. 本時のねらい

和が10より大きくなる加法の計算の仕方を考える活動を通して、10のまとまりを作ると既習の数の表し方と同じになることに気づき、計算の仕方を説明することができる。

【思考・判断・表現】

### 4. 本時の展開（1／7）

|                  | 学習活動                                                                                                                                                                                                                  | 指導・援助・評価                                                                                                                                                       |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| つ<br>か<br>む      | <b>1 本時の問題把握</b><br>どんぐりが9こありました。4こもらいました。ぜんぶでなんこになりましたか。<br>・式は $9+4$ になりそうだ。<br>・答えは13かな。<br>○これまでの学習と何が違うんだろう。<br>・答えが10より大きくなる。                                                                                   | <b>学びの環境</b><br>・既習内容を振り返ることができる掲示をする。<br>・既習内容と本時の問題を比較し、違いを課題化につなげる。                                                                                         |
|                  | <b>2 課題をつかむ</b><br>こたえが10より大きくなるたしざんのしかたをかんがえよう。                                                                                                                                                                      | <b>【重点1】 数学的活動の明確化</b><br>・ブロック操作や図をかくことを通して、 $9+4$ の答えを自分のやり方で求め、求め方を説明する。                                                                                    |
|                  | <b>3 自分の考えをもつ 個人追究</b><br>①ブロックを使って考える。 ②図を使って考える。 ③ブロックを一つずつ数える。                                                                                                                                                     | <b>【重点2】 主体的・対話的な学び</b><br>・個人追究では、考えをもてた児童からミニ先生となり、考えを伝えつつ、困っている児童の助けとなるようにする。<br>・ペア交流では、どのような考えをもったのか、ブロックや図を使いながら全員が話すようにする。                              |
| 考<br>え<br>る      | <b>4 考えを伝える 全体発表</b><br>○代表を一人選び、考えを話してもらう。<br>・はじめに、4の中の1つを9と合わせて10を作ります。次に、10と残りの3を合わせて13になりました。                                                                                                                    | ・代表者に手本となる発表をしてもらうことで、ペア交流でどのように話せばよいか全員で確認する。<br>・「はじめに～。次に～」といった話し方ができているか、聞く側に視点をもたせて話を聞けるようにする。<br>・操作をしながら話すことができるようにする。そのために、個人追究場面から、話しながら動かしたり考えたりさせる。 |
| ふ<br>か<br>め<br>る | <b>5 考えを小集団で交流する ペア交流</b><br>・ブロックを使って考えました。はじめに、ブロックを一つ動かして10を作ります。次に、10と残りの3を合わせて13になりました。<br>・図を使って考えました。はじめに、図の4から1もらってきて10を作ります。次に、10と残りの3を合わせて13になりました。<br>・ブロックを使って考えました。はじめに、ブロックを合わせます。次に、1つずつ数えると、13になりました。 | ・10のまとまりを作って考えていることをとらえさせる。児童のつぶやきを問い返しながら、全員が理解できるようにする。                                                                                                      |
|                  | <b>6 深めの発問</b><br>○教科書にある説明で、同じところはどこでしょう。<br>・10と3になっている。<br>・10のまとまりをつくっている。                                                                                                                                        | <b>【重点2】 主体的・対話的な学び</b><br>・できたこと、分かったことをペアで話すことで、できたという実感をもてるようにする。                                                                                           |
| ま<br>と<br>め<br>る | <b>7 本時のまとめ</b><br>こたえが10より大きくなるたしざんは、10のまとまりをつくるとけいさんできる。<br><b>8 練習問題</b><br>$9+2$ を、10のまとまりを作って考え、計算の仕方を説明しよう。<br><b>9 振り返り</b><br>・わたしは、ブロックを動かして10のまとまりを作ったら計算できました。<br>・10のまとまりを作れば計算できることがわかりました。              | ・教科書の話型を参考に説明できるようにする。<br>・何を話せばよいか視点を与える。<br><b>評価規準【思考・判断・表現】</b><br>・和が10より大きくなる加法を、10のまとまりとあといくつという表現を使って、計算方法を説明している。                                     |